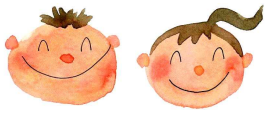
レシピ ＃006　　R3.8.26

短歌の鑑賞を深めるコーディネート



〔安達地区〕
中学校　国語科の授業より

授業のワンシーン

「短歌に親しむ」という単元のまとめの授業です。
生徒がそれぞれ自分で創作した短歌の鑑賞を行います。
鑑賞するのは生徒が選んだ８首。
まず全員で朗読し、班で交流後、全体で鑑賞しました。

短歌：***「離任式　ご時世によりモニターで　涙も出ずに　悲しい別れ」***

Ａさん：「お世話になった先生と最後なのに、『モニターで』という言葉からコロナのせいで黒板に映して見ているだけだという残念な気持ちが伝わります。」

教　師：「そうなんだね。Ｂさんはどう思いますか。」

Ｂさん：「残念だけど、その様子はなんか笑えるような気がします。」

教　師：「へぇ。Ｂさんはかわいそうだけど滑稽にも感じたんだね。」

（うんうんと頷く他の生徒を確認して）「頷いている人もいますね。」

～その後、生徒の頷きや感心、驚きなどがどんどん増えていきました。～

ここがオススメ！

生徒に作歌を通して言葉を吟味する経験をさせ、語彙の広がりや想像の広がりを実感させる授業でした。生徒一人一人の作品の感じ方は違います。同じ短歌や同じ言葉でも様々な捉え方があるので、互いの考えを聞く必然性が生まれます。

Ｂさんが「残念だけど、その様子はなんか笑える」と、Ａさんに共感しつつも異なる考えを発表しました。これは偶然でしょうか。教師が生徒の記述や班活動の様子を机間指導で見取っているからこそできる意図的指名なのです。

生徒の気付きや考えを広げ深めていくために、どの生徒の考えを取り上げ、つないでいくかという教師のコーディネート力が問われます。

CHECK　県北版【参考資料Ⅰ】「主体的･対話的で深い学び」の実現へ向けて　P.9 P.10